

## チリ 2024年の生食用ブドウは5,500万～6千万箱に

The Grape Reporter 2024年2月16日

2023年の米国カリフォルニア州の生食用ブドウ生産量の減少により、輸出果実の米国市場への出荷が早まる道が開かれた。これは、カリフォルニア州産の後に米国市場に供給するペルーとチリに当てはまる。

カリフォルニア州とペルーの両方からの供給量の減少により、2023年末と2024年初頭は価格が非常に高くなった。インターナショナルフルーツ社の南米調達担当マネージャーであるラウル・ヒアート氏は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、「11月と12月は価格がかなり高かった。ペルーのピウラ県からの出荷量が約30%減少したため、12月の価格は30～40ドル/箱に上昇した」と語った。イカ県(ペルー)からの輸出が価格を安定させると期待されていたが、それは実現せず、価格は1月を通じて平均を上回っていた。

**チリ産シーズンの開幕** チリで最初に輸出を開始する地域はコピアポ県(アタカマ州)だが、ヒアート氏は「コピアポ県では出荷量が減り品種も変化したため、輸出の時期が移動し、もはや11月には収穫が無く、12月から1月にかけて収穫されるようになった」と警告している。

さらに南のオバジェ地域(コキンボ州)では、少し遅れて出荷が始まるが、ヒアート氏は「利用可能な水の量は悲劇的であり、それを考えるとこの地域が果実を生産し続けているのは奇跡である。このためチリの輸出のスタートはそれほど力強くなかった。チリは今の時期までに約1,100万箱を収穫していなければならないが、まだ800万箱にとどまっている。第5週から第6週(1月末～2月上旬)の間に、昨シーズンは約1,400万箱が米国向けに積み出されたが、今年はほとんど積み出しておらず、昨年の数値にはほど遠い」と話す。

フルタス・デ・チリ(チリ果実輸出業者協会)は今シーズン、約6,300万箱の輸出を予測しているが、ヒアート氏は実際の輸出量は5,500万～6千万箱になると考えており、「推計によると、第4州(コキンボ州)には約1千万箱が残っているはずだが、実際にはそこにその果実はない」と言う。

**出荷量の増加** 第7週～第8週(2月中旬)には出荷量が増加し始めると推定されるため、米国市場でのチリ産ブドウのシーズンのピークは3月中旬と予想される。

ヒアート氏は、「その量を動かすには米国のスーパーマーケットでの販促活動が鍵となるだろう。果実が入荷しても販促がないと荷動きが鈍くなる。そうすると、果実が燻蒸されており、あまり日持ちしない品種でもあるので、売り上げが少し悪くなるかもしれない」と話す。

今から2月末までの間に価格は下落し続け、1箱当たり約25米ドルに落ち着くと予想される。なお、これまでのところ、米国市場での果実の荷動きが好調であったため、ブドウの品質は良好であった。

**チリの出荷シーズンの持続期間** ヒアート氏の推計では、チリ産ブドウは3月を通して米国市場に供給するのに十分な量がある。同氏は、「果実の量と荷動きが維持されれば、4月の第2週までブドウがあるかもしれないが、その予測を立てるのはまだ早い」と言う。

**物流** ヒアート氏によれば、同氏自身が「パナマ運河の問題に怯えていた」が、チリの出荷シーズンには運河の水量が増えてうまく機能したので、「それで大きな問題が起こるとは思えない」。

**チリのブドウ産業の見通し** ヒアート氏は、「チリのブドウ産業はここ数年で多くの変化を経験した。一方では12月から1月にかけて市場を席捲する新品種を持つペルーの台頭があり、他方では品種の入れ替えがあった。今年は、チリの出荷量の64%が新品種になる。この品種の交代は業界に新たな活力を吹き込み、シーズン当たりの健全な出荷量を6千万～6,500万箱の範囲とし、その中で新品種の割合が高くなる」と語る。

その果粒の大きさのためにこれらの新品種はアメリカ市場で受け入れられやすい。同氏は「新品種は、ほとんどすべてがより良いとされる特大及びジャンボ級の果実であり、この量を販売するのは難しくない」と言う。

ヒアート氏は最後に、「品種の入れ替えを続け、新品種のブドウが高品質で輸出業者に届くように出荷量を調整する限り、この業界には良い未来があると思う」と断言する。